

☐はリンク

※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 和楽の家 東児 ※

日付 平成 21年 3 月 30 日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります！) ※

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して (特に良いと思われる点など)

母体法人(株)桜梅桃里が三番目のグループホームを玉野市に開設し1年経過したホームを訪問させていただいた。今年度、この法人が運営する3ヶ所のグループホームを訪問した。地域は岡山市郊外、久米南町とこの玉野市であるが、共通して田園地帯である。運営理念は全部共通、建物のレイアウトもほぼ同じでいずれも2ユニット18人定員で同じである。しかし、この3つのホームの雰囲気は全部違っていた。それぞれのホームの独立性を重んじていると云えばそれまでだが、一番大きな違いは職員の人材だろう。それによるホームの雰囲気が全て違っていた。グループホームは人なり、人間、特に施設長や管理者による存在が大きい事はどのホームを見ても同じである。

このホームは、一人の施設長と2人の管理者(計画作成担当者兼務)3人体制でチームワーク良く、職員との連携をとりながら職員間の和ができています。施設長はグループホームの経験が大変長く、最近では他のホームの内部充実業務にも関わってきたベテランと言っても良い。そして自らのグループホーム像というものをしっかり持っていると思う。『大抵の利用者本人はホームに入れられたと不満を持っている。家族はこれ以上家に居てくれたら困ると不安を持っている。グループホームに入所して利用者が職員を信頼できるような穏やかな生活が出来れば、心が開ける。このような人間関係をつくる醍醐味がグループホームにはある。家族がホームを訪問して連れて帰ってと言われたらと心配する。外泊で家に連れて帰り、もう帰らんとと言われても困る。しかし、ホームで利用者本人が炊事や掃除又は貼り絵等をして友達と一緒に生き生きと表情豊かに生活している姿を見たり、あんなお母さんの笑顔や働いている姿を見たら安心する。そしたらホームを良く訪問してくれるようになります。家族同士の新たな絆が生まれ、新しい満足できる家族関係、人間関係が生まれます』まさにグループホームという場が、「ここで暮らすのが一番良い」と利用者にも云わせる生活の場、残された生涯の居場所をつくってあげる所である。認知症本人と家族の両方を支えられる介護職のプロがここに生まれている。認知症ケアは「安心・満足・信頼」の人間としての基本があれば、普通の人間として暮らせるという姿を実証してくれていた。そして職員に対して「ここで働いた事が、自分を色取り、自分の人生をすることになる」と言っている。又管理者は「それぞれの居場所を感じてもらいたい。手作業によって眠っている能力を引き出し、家族が面会に来た時、あんな事も出来るの、と利用者本人を再発見してもらえ良い雰囲気づくりをしたい』『一人りひとりの能力を見てもらい、9人が一緒に穏やかな生活をしてもらい、両方のユニットの交流も積極的にして18人の利用者の生活の場を良くしたい』と強く言っていました。

特に改善の余地があると思われる点

認知症に対する理解及び認知症ケアの真髓を実践しているグループホームの一つである。まだ設立して1年でこのような姿を見せてくれている。これからは、利用者に対するケアのこのホームの特徴、このホームでの生活のモデルを生み出してもらいたいと期待している。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	1、自主評価について…：理念については会社の共通理念とホームの介護理念があり、これに沿ったケアサービスの体制をしっかりと成熟させ、このグループホームの特長と認知症ケアと人間関係構築のモデルを作っていく段階にある。 2、全体的に見て…：ホームの介護理念は「私たちは、入居者様のこれまでの人生に敬意を払い、入居者様の“今、ここで”を大切に、自分らしさを損なうことなく、穏やかに暮らすことができる支援を、尊厳ある関わりを持って行います。私たちは、職員間の輪を大切に、入居者様、職員共々に、和やかに、笑顔溢れるホームを目指します」である。二つのユニットの利用者と職員の様子を見てみると、どの人からも笑顔と楽しさが満ち溢れている姿を見せてもらった。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、自主評価について…：生活空間のハード面については改善するところはない。リビングルームを中心に全体の空間が人で埋まっているという感じがして、利用者と職員が全ての空間を使いこなして生活しているという人間の醸し出すソフト面も見られた。 2、全体的に見て…：玄関を入ると、壁面の利用者の共同作品が迎えてくれる。ホームでは、今日節分を終えて、雛祭りに向けての作品を制作中である。 リビングルームは吹き抜けの天井に、明かり取りの天窓を配した拘りの造りで、全体的に開放的で明るい雰囲気だ。リビングルームを囲むようにある居室入口には暖簾を掛け、ドアを開けておく程度良い目隠しになり、開放的な明るい感じがする。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	評価	不能
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	評価	不能
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、自主評価について…：ケアマネージメントに関してまだ改善していく段階ではなく、現在定めた目標に向かってシステムの定着をしていく段階である。その中で、介護計画の作成するシステムに改良を加え、日常業務に直結した計画と記録になるようにしていこうとする意欲がある。又認知症ケアの中で利用者の持っている能力の活用と再発見に努めて、生き甲斐のある人生を送ってもらいたいと考えている。 2、全体的に見て…：利用者が入所した時の本人と家族の気持ちについて前記しているが、当時家族がホームに来て本人とは会わずに帰っていた。本人が昔賄いの仕事をしていた経験を生かして調理を担当してもらって、役立てる仕事を見つけた利用者はこのホームで落ち着きを見せ安心した生活が送れるようになり、本人から「一度若い者と話しをせにゃならん」と言って家族の関係を再構築でき、自分の家に帰ったら、15分もせぬうちにソワソワとしてホームに帰り、ほっとしていたと		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	1、自主評価について…：地域との交流促進について、これからも活性化させていきたいと意欲を見せている。そして認知症理解を地域の人々にもっとしてもらいたいと思い、これからも機会をつくっていきたくと考えている。 2、全体的に見て…：昨年、運営推進会議で「地域のために出来ることはありますか？」と問いかけると「田舎で楽しみ事が少ない」と言われ、夏祭りを企画して、地元の病院や市民センター、スーパーの協力を得て、愛育委員も協賛してくれて開催した。地域の人々もたくさん参加してくれ、地域との交流が深まった。家族及び近所の方々と日頃の付き合いも深まり、野菜や果物の差し入れをしてくれたり、ホームの菜園の作り方の指導もしてくれている。お菓子や食器持参でホームに来てお茶会をしてくれる近所の人もある。一周年記念にミニ講演会をして、地域の人も多く参加してくれた。		